

東京大 授業料値上げへ 2025 年度学部入学生から

河合塾

2024/9/11

このほど東京大は 2025 年度の学部入学生から授業料を改定することを発表した。学士課程、大学院修士課程とも現行の授業料から約 11 万円の値上げとなる。詳細は以下の通り。

■約 11 万円の値上げ

今回の値上げにより、東京大の 1 年間の授業料は年額 64 万 2,960 円と現行より約 11 万円の値上げとなる<図表 1>。東京大の規則では在学中に授業料の改定があった場合、改定時から新授業料が適用されるが、今回は過渡的な激変緩和措置として在学生の授業料は据え置き、2025 年度入学者からの年次進行となった。また大学院修士課程の授業料値上げは 2029 年度入学者からとし、現在学部で学ぶ学生が標準的に卒業し、修士課程を修了するまでは現行の授業料が維持されるとした。

大学は今回の授業料改定による増収を教育学修環境の改善に活用するほか、授業料減免枠を拡大して授業料全額または一部免除の対象者を増やすなど支援を拡充したいとしている。

<図表 1> 東京大 授業料の値上げと学生支援拡充

授業料改定

- 学士課程 現行：535,800 円 → 2025 年 4 月入学者：642,960 円
- 修士・専門職学位課程 現行：535,800 円 → 2029 年 4 月入学者：642,960 円
- ※法科大学院・博士課程は現行どおり

学生支援の拡充（授業料全額免除対象）

- 学士課程 現行：世帯収入 400 万円以下 → 世帯収入 600 万円以下
- 修士・専門職学位課程 現行：家計の総所得金額を基準と比較し適否審査 → 世帯収入 600 万円以下

■国立大の「標準額」とは

国立大の授業料等は文部科学省令で規定されており、学部・大学院の授業料は、学部の種類に関係なく年額 53 万 5,800 円と定められている<図表 2>。

ただし、各大学は「標準額」の 120%を上限に、授業料を独自に設定することが認められており、今春学部入学者の授業料は、千葉大、東京医科歯科大など首都圏の 6 大学が標準額を上回る設定をしている<図表 3>。また、検定料、入学料も標準額の 120%を上限に独自に設定することが認められており、東京外国語大（前期日程）で検定料が、東京芸術大で検定料と入学料がそれぞれ標準額を上回る。なお、標準額を下回って設定することも認められているが、2024 年度時点で該当する大学は見られなかった。

■他大への影響は？

春先に東京大が学費値上げを検討していることが判明してから、各地の国立大も一部で値上げ検討の報道がなされている。本日時点で東京大以外に来春からの値上げを発表した国立大は見当たらないが、今後の動きが注目される。

なお、国立大の「標準額」が現在の基準となったのは 2005 年度で、20 年近く改定されていない。加えて物価高騰が進むことから、近い将来「標準額」の改定（値上げ）がなされても不思議ではない。もし標準額が値上げされれば、ほとんどの国立大が実質の値上げをすると思われる。

<図表 2> 国立大の授業料等「標準額」

授業料：535,800 円（年額）
入学料：282,000 円
検定料：17,000 円

※文部科学省資料より、「学部」の令和 5 年度標準額

<図表 3> 「標準額」を上回る設定の大学

授業料 金額は年額で（ ）内は標準額との比較

- ・千葉大 642,960 円（120%）
- ・東京医科歯科大 642,960 円（120%）
- ・東京芸術大 642,960 円（120%）
- ・東京工業大 635,400 円（119%）
- ・東京農工大 642,960 円（120%）
- ・一橋大 642,960 円（120%）

入学料

- ・東京芸術大 338,400 円

検定料

- ・東京芸術大 20,400 円
- ・東京外国語大（前期日程）19,750 円

※河合塾調べ、いずれも 2024 年度学部入試の金額